

繪本寶鑑發題

平井文庫

慶應
大塚新收

凡畫有六灋。一曰氣韻生動。二

曰骨力用筆。三曰應物象形。四

曰隨類賦彩。五曰經營位置。六

曰傳移模寫。得之心而運之筆

則可謂妙手矣。中間有橘宗重

繪本



貝鑑發題

平井文庫

慶應義塾
火後新收

六灑一曰氣韻生動。二

用筆。三曰應物象形。四

賦彩。五曰經營位置。六

模寫得之心而運之筆

妙手矣。中間有橘宗重

畫本寶鑑

者依貴人之需所撰斯書也。余
來後去先而雖不相遇每閱於
其書即非不感其為人盡心為
已學道矣惜哉手澤久而殺青
為之蠹縹緗為之德。余雖庸昧
匪才竊正其反乙補其闕畧削

其重復使長谷川氏圖焉志于
畫圖者開卷之際六法不學而
在焉斯且不志于畫圖者當知
往古之人品識益固之故事故
今也繕寫校正而屬之書林鏤
梓而以壽于世云。奇貞享龍集

ありき事。とらと齊。亦回遠山の佳色山
 もあや。皆付けはと背びん繪者玉栞合敷
 の糖敷のまよぬびあ見取の利あるまきハ
 賢くさきと知近き人々情と織或魚之
 信や智波系或世俗の教誨と均し
 かく武士描之別武備の一物をたれ候令
 戦味と寫り魚鏡よりかきば好翼より
 そまふ。海賊法より大物らへば。敵相伍張

ありき人張海と。是は魚之中一乃の也
 管年の勇まきいさく。あは。文武あたる
 思へばあ。線兵と丹着にんを移し。武成戦
 看にき。えそ道とあひ。や。是英雄にて。
 文武の士成画し。あまの。烟海の芦鷹漢
 依成画にき。望より者んを移り。洞窟より
 移し。いさ。海舟と呼ぶ。海去んとは傍人
 是丹着あり。を。伊勢とや。是畫之神子

橘氏宗重著

藤貞漢再考

畫師雪舟嫡流

法橋宗圓子

長谷川氏等雲



繪本寶鑑卷第一目錄

才一

楚莊絕纓

才二

聖人賢人

才三

崇父許由

才四

劉劄

才八

司馬相如

才六

尾生

才七

韓退之

才八

東坡李元推

才九

仁公子

才十

義筆翁

才十一

大公望

才十二

范蠡

才十二

嚴子陵

卷第二目錄

第十四 李太白

第十八 林和靖

第十六 王羲之

第十七 黃石公

第十八 金瓶石

第十九 蕪武

第二十 毛寶白龜

二十一 魯媽

二十二 潘罔

二十三 賈嶋

二十四 日能

二十五 三笑

二十六 酖吸三教

二十七 商山四皓

二十八 七賢

二十九 伯夷叔齊

三十 彭門

三十一 猿索龜

三十二 意馬心猿

三十三 一龜二孺

三十四 瓢簞推輪

三十五 牡丹睡梅

三十六 陶淵明

三十七 孫明府

卷第三目錄

三十八 燕亭

三十九 巨靈人

四十 齊衣破環

四十一 姐奴

會文

二

四十二

将手琵琶島

四十四

戴安道

四十六

金河金主

四十八

柳松心人

六十

上利劔

六十二

列子

六十四

芥柯

六十六

一角仙人

四十二

起直物令

四十六

西王母

四十七

費長房

四十九

洪楊

五十一

洪伯房

五十三

初平叱羊

五十五

張果郎

五十七

琴高

六十八

魚教

六十

源康

六十二

車胤

六十四

月支

六十六

婦嫁

六十八

物伎守山

卷第百目錄

六十九

韓吏人

五十九

吹笛翁

六十一

休穉

六十三

源教

六十四

鳩洋

六十七

舟子

七十

寶筆

七十一

東坡

七十二

秦始皇

七十二

鸞

七十二

七夕

七十八

子朝伯牙

七十六

王照君

七十七

卞和璞

七十八

倪寬

七十九

八景

八十

李白

八十一

昭古海

八十二

仇夢俊

八十二

福祿壽

八十三

念力透石

八十八

呂樂轉

八十六

鹿馬圖

八十七

四知

八十九

馮媛

八十九

楊中修

九十

孔子十哲

九十一

遜

九十二

一眼之惑

九十二

以賢伯

九十二

山谷

九十五

目茂叔

九十六

孟浩然

九十七

貨狄

九十八

楊家黃雀

卷第五目錄

九十九

祖師釈迦如来

一百

桃苍悟道

百一

将行悟術

百二

月下大笑

百八

蜆子

百七

隙沛栽松

百九

越及栢子

百十

船子变山

百十三

馬祖

百十五

二祖立雪

百二

丹處本佛

百四

猪頭

百六

知門蓮華

百八

舞山樂子

百十

六祖

百十三

母鴨子

百十五

托鉢修心

百十六

二僧坐空危

百十七

栢樹子

百十九

善化

百廿一

睦列

百廿二

穴睦

百廿八

大隨急法

百廿七

丹霞垂水

百廿九

合米飯桶

百卅一

高亭榜榜

百十八

老浪官梅

百廿

孝子

百廿二

俱臉雙指

百廿四

御本押飯

百廿六

石翠波弓

百廿八

仰山紅榜法

百卅

西廡乞色

百卅二

多果

百四三

白胡椒

百四四

白胡椒

百四六

多枝樹

百四六

女子出定

百四七

露法湯瓶

百四八

六祖風帳

百四九

南泉牡丹

百四九

羊乳を少

百五〇

乳第一坊

百五〇

大中子

百五一

白牡丹

百五一

長城一枝系

百五二

海州法壇

百五二

文殊尊者四景

百五三

海州法壇

百五三

黃染毒抄

百五九

黃山綿糸

百五十

末色覆部

百六〇

白牡丹

百六〇

赤白交股花

百六一

生肌融線

百六一

投子一斤石

百六二

慈的一盆水

卷第六目録 畢

百六六

達磨辨玉

百六六

武帝在達磨

百六八

一花達平

百六八

隻履達平

百六九

一花達平

百六九

沙衣達平

百六十二

一草連片

百六十一

面影多連片

百六十

徳山八門板

百五十八

烏的棒

百五十七

南泉一虎回春

百五十六

仍山御山掃帚

百五十五

修多子普度庵

百五十四

三山竹篾

百六十三

板齒連磨

百六十二

徳山六花並苗

百六十一

深明二上在

百六十

徳山素跨板

百五十八

文殊三虎回春

百五十七

茶の初香

百五十六

新傳減燭

百五十五

曹山圓都

百七十八

徳山徳完大板

百七十七

南泉一虎和

百七十六

作山劃一劃

百七十五

南岳磨磚

百七十四

加東茶坊

百七十三

作山木月板

百七十二

資福一圓相

百七十一

徳山在徳慶回春

百七十

麻名抄師

百六十九

普賢大後後

會本意目録

二

元来具と催さんふれは宴あれど。さづかぬは
 人とけさかひんを仁道ふらぐべし。龍顔かつくお
 解させ給ひ。義人ふけりたるは。ゆがふと。しん妙を
 されど。暎ほと。信下はあふさう。し。奈何そ
 婦人の節と。わらうさんうて。士ら。そのと。辱を
 やさく。すあつら。たのん。命を。曰。今日。あ
 と。よ。酒と。研で。研。と。其。と。そ。研。ら。た
 ちみよ。冠の。綱と。し。ひ。を。た。ら。め。の。い。ら。あ
 こ。ぐ。と。あ。り。さ。さ。で。百。餘。人。を。さ。ら。信。下。み。を。そ
 綱と。し。ら。と。せ。た。れ。ど。と。と。く。に。火。と。あ。り。わ。れ
 ごと。み。れ。冠。の。綱と。し。ら。ら。ゆ。人。義。人。の。衣。ひ。た。ら

色。終。り。それ。を。あ。れ。ど。信。ら。あ。い。び。と。お。さ。く。お
 酒。高。い。と。さ。ふ。ら。願。石。晋。の。は。と。楚。の。國。と。戦。ひ
 と。し。り。楚。と。あ。や。う。かり。し。と。さ。ら。よ。一。人。の。信。下。前。よ
 ふ。さ。り。ふ。さ。び。飲。み。合。さ。く。み。さ。び。首。と。切。獲。ら。ら
 ま。ら。飲。と。追。退。す。卒。は。勝。軍。と。を。あ。り。さ。り。さ。る。
 莊。王。あ。や。み。い。う。あ。つ。ま。の。そ。と。さ。い。給。く。ど。ら。そ。や
 酒。と。給。信。よ。い。ゆ。り。し。と。子。義。人。は。綱。と。ま。さ。し。せ
 り。の。あ。り。と。わ。ら。れ。く。その。所。信。と。新。し。な。事。は
 と。し。ら。る。と。あり。是。を。承。り。て。仁。愛。宥。恕。の。情
 悔。し。く。ら。ゆ。人。ふ。な。ん。知。り。が。死。せ。し。ま。ら
 ぶ。し。あ。り。けん。し



第二 聖人賢人

此由不納履李下不整冠と云は詞一見より。是ハ
聖人の心をくし。聖人の心ハ温潤とやうくおきておの
くまらざるまきごとく。さうしては。孫謙と云ふ
くまらざる人の疑ふ事とかう。聖人の徳と云ふ人の
心とあがく。されど。賤しき人の植。おのれ。此の田と
さうして。後乃脱らると直さば。人あはれや。さりしこ
ゆりん。うよの心。ぬなり。又。李。み。ま。の。木。の。下。と。こ
れ。時。符。ゆ。び。と。て。こ。ん。と。云。は。ば。人。ま。る。李。み。
や。れ。と。疑。う。ん。ゆ。と。思。惟。て。終。り。符。と。と。
さ。す。戦。兢。お。お。ま。さ。け。と。さ。る。ゆ。必。ん。と。い。は。す。

むらゆ採とともそ大徳の頭つゝるのど
 凡由取履梨下直冠是ハ賢人の心なり
 のどく賢人の珠は物よはすも賢人の水精
 也あまこと水はがいのやく光耀のひらりあさ
 がとくまよふく我亦るよわくさきハ
 さくふ珠一たふ凡の田とさる時後乃脱を
 とて凡ハさる履とさるさるすわんわ
 亦下とさる時冠可めととて
 心あんとさるさるんとそのま
 と江冠ととと。是とさる。賢人なるは

又ありよの採心
 かいぐあり
 いんや
 又
 遠
 知
 ま
 物
 後
 者



新本卷一

才三

巢父許由

巢父許由ハ世とのつて山林の隠れ人なり。賢人なり。去は。堯王代と懐く人なり。許由に勅使と下りきり。許由辞去く。椽をくく城支しき。隸川の瀬に耳を洗ひらる。かつら。西の巢父牛の好らんとありし。が。乞とらん。と。同ふ。許由去る。れ。と。河。巢父驚き。折げ。と。耳洗ひ。流。せ。り。い。さ。き。ら。牛。の。側。人。や。と。て。已。ん。て。日。汝。椽。持。と。み。ど。や。影。思。乃。けり。き。不。子。ま。と。たり。こ。岨。の。生。れ。ぬ。と。人。か。ら。さ。り。あ。り。故。お。工。匠。一。伐。と。ら。し。事。と。免。れ。り。と。乃。を。を。つ。は。

離れしうろ河に
 位ありはあんに
 堯の使はれん
 やとそを笑ひらる
 許由洗耳
 巢父牽牛
 渾んと
 こそ



繪本卷一

五

第に

劉訓

劉訓もろし人の好んで黒牛と飼ふ。或時け牛は
 庭前の盛なり。牡丹のりふ繫帯。目とあやま
 め飛りつとくろく。客有りて牡丹乃妖艶とあやま
 うり。き文とあめくりに劉訓はく牛の事や
 のと對へける。是より心牛子のとひつて人のこ
 ばと。身より

こころのあつて

牛とあしとくろく

是より信く牛乃美らと

黒牡丹とくろく



才人

司馬相如

唐古蜀城乃北七里に昇仙橋有り。司馬相如こ云し人
 学文より時。げ橋極よ記志く曰。大丈夫馬の車しふ

のこぼるにげ橋を二返りついでせ誓ふ果て景帝につきて
 思ひぬまゝに武騎將軍とあり。彼橋を後にしゆりしと
 かり。げんと大ねあり。堀河院百首の橋に歌の歌
 げよと橋のうらよきて昔の人を信ずりけり 匡房
 我はさけ悪よりのんハ湯じと男と字は橋よきけり
 定家ハ新古今百首の橋の下れ山吹
 橋のうらよきと出るん言葉と
 いくぞぞ自よやまづれぬるれ



第六 尾生

尾生と云し人ハ信とちりり人也。或時女と誓ふ
 る。今宵ハ橋の下に誓ふ人と云。約談云々。尾生

先立て彼橋の下ふゆり
 時依も水も暮りけしは彼
 約と遠へ一と。そのおとさるべ
 終り溺れ死しと。此のゆかり
 りよの碑さる也。豊の同集も見
 うり。好も女果てをいさ
 飛と川下をて見つを。尾生
 ハ控たときさるゆかりあり
 とさる。さるゆかりしと
 かり



才七

韓退之孟東野

韓退之と孟東野ハ莫逆のなかり。或況も孟東野
 義の年ありしに。韓退之ありて。乞と乞せり。或
 時韓退之移居よ
 たりありて。ハ。ま
 死すば。おとさるん
 ぬハ。おとさる
 んと。向ふ。孟東野
 養く。曰。おとさる
 らど。新とな



らん堂 繁りしとや。韓雲孟龍乃約とて子
此竹也心。こころりきくふなるべし

東坡李節推

李節推り東坡風流の因あり。富湯の新
不所へゆ。李節ハ二首先の世と。風水洞
東坡と竹。東坡李節推とてふてひやくたす
乃云ふり

溪橋曉溜流毒藥 知馬繫馬岩花落

此の乃と下あまごを記とる小違あつと。冷
此二のよとくむゆりかりん。んけとてり
句。げ例とてく准知る



第九

任公子

任公子ハ好んで釣る人なり糸二筋と竿一節を
取乃魚とけりしと云や

第十

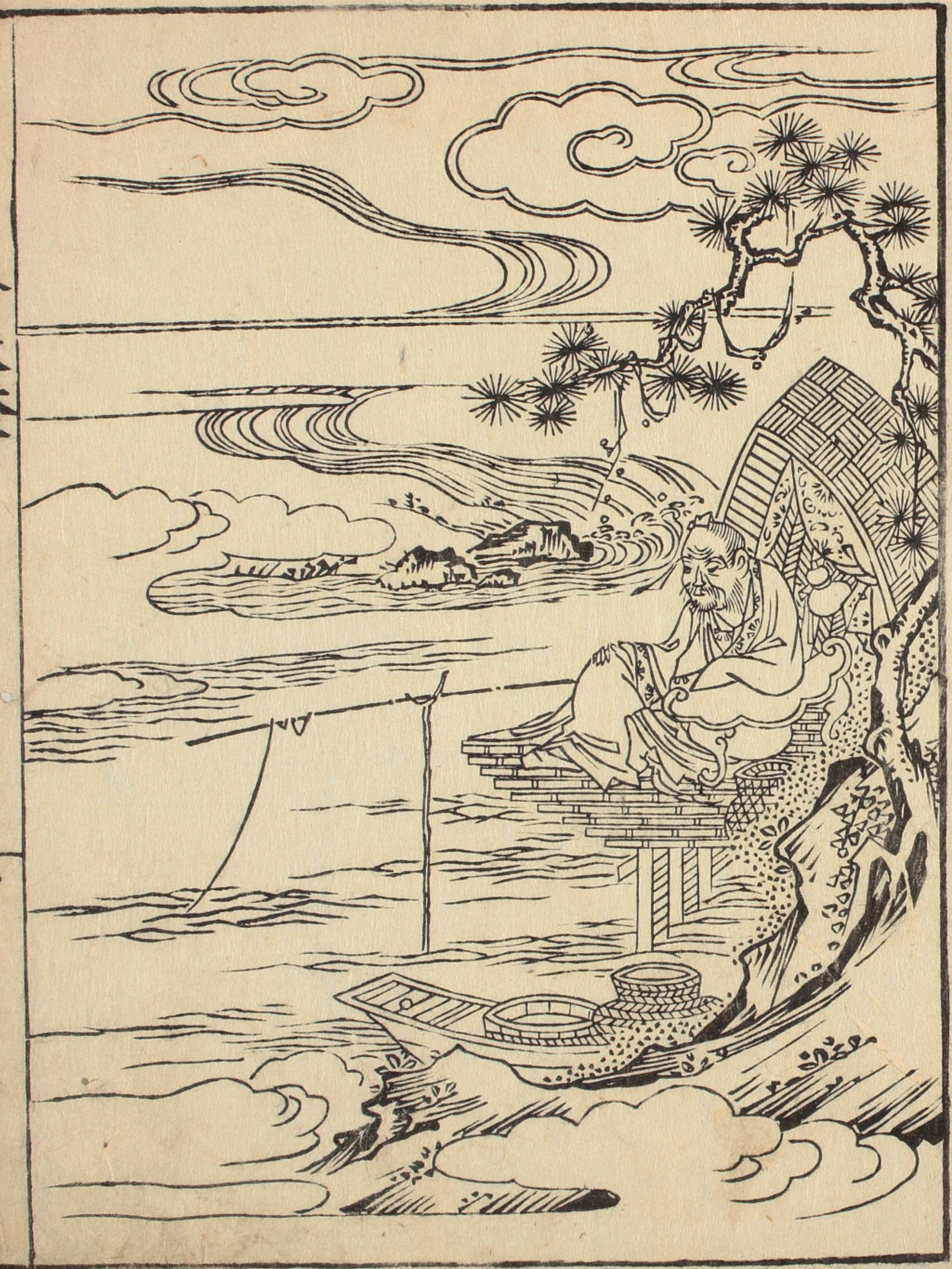
義経公

智乃ふるに義経公とて舟を釣る所と書ハ
独釣寒江雪と云辭ありてなる

第十一

大公望

太公望ハ渭水に釣る人なり文王賢
佐と號し徐公の時にて彼を召りて
詢りてよと云や



繪本卷一

第十二

范蠡

范蠡ハ越ノ王勾踐トシテ人レ辱下カラン。呉ノ王夫差トシテ人ト。勾踐ト大ニ戦フ。始ハ越王討まけり。范蠡ガ討にシテ終リ。呉王ト成リガ事。其ノ功。范蠡小アリシ。大國トシ。海に切成名。遂身退ハ天ノ乃あり。是ト受ズ。五湖トシテ。去テ。扁舟ニ棹。魚トシテ。樂ミ。後小富貴ノ事トあり。陶朱公トシテ。變リ。故変大凡世人ノ耳。子。新。西。又。一。況。西。施。ハ。淫。女。あり。是ト。禁。中。小。毛。ハ。あ。う。び。世。ト。安。う。肉。ト。して。五。湖。子。隠。ル。也。



ふいふん
富まるといふ
ゆきを耕作とぞ
あさりたり元約世
とらとのかれ人
あがもく岩凌沖と
いふとせん



